

小丸川水系河川整備計画の点検

令和7年7月16日
宮崎河川国道事務所

■河川整備計画点検の流れ

- (1)これまでの点検経過**
- (2)整備計画の概要**
- (3)河川整備の進捗・実施状況**
- (4)流域治水の取組み**
- (5)流域治水プロジェクト2.0**

(1) これまでの点検経過

河川整備の実施

H 2 0 . 3 小丸川水系河川整備基本方針 策定

H 2 5 . 8 小丸川水系河川整備計画 策定

H 2 7 ~ 河川整備計画 点検 (計 7 回)

社会情勢の変化

河川整備の進捗・実施状況

R 7 . 7 河川整備計画 点検 (今回)

河川整備の進捗・実施状況

(2) 小丸川水系河川整備計画の概要

整備計画の目標

整備計画の目標

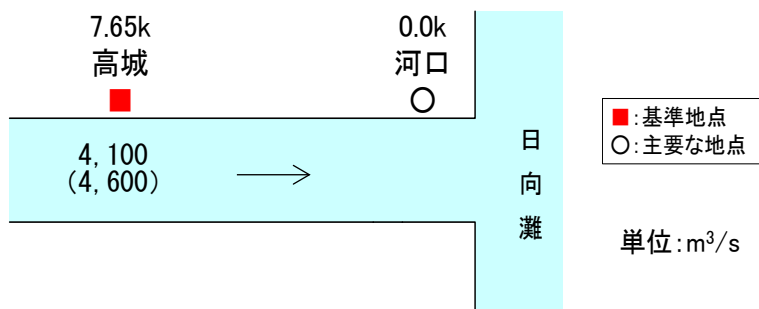
■本計画で定めた以下の治水・利水・環境に関する目標の達成に向け、河川整備を実施します。

治 水

戦後第2位相当となる平成16年8月洪水を概ね安全に流下させ、さらに平成17年9月洪水の水位低減を図ります。

小丸川本川における整備目標の基準地点流量

基準地点	目標流量	洪水調節量	河道流量
高城	4,600m ³ /s	500m ³ /s	4,100m ³ /s



この他「堤防の安全性向上対策」や「内水対策」及び「地震・津波対策」等についても、必要に応じて対策に努めます。

利 水

○河川水の利用に関しては、取水実態の変化を踏まえ、慣行水利権から許可水利権への切替等、適正な水利使用の調整を行います。

○動植物の生息・生育、漁業等に必要な流量を下回らないように努めます。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量

地点名	期別	流量
高城	通年	概ね2m ³ /s

環 境

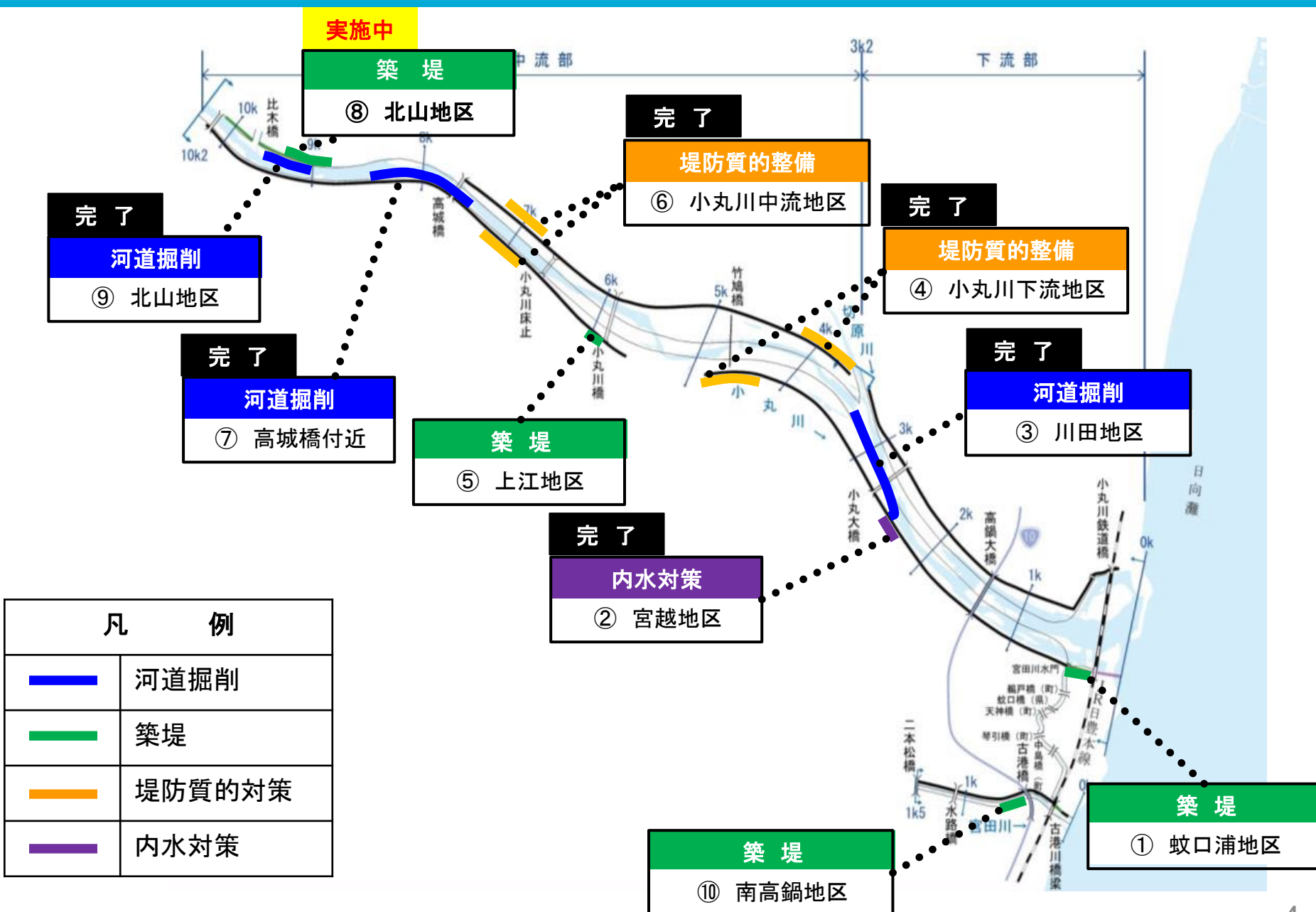
○河川環境については、重要種を含む多様な動植物が生息・生育・繁殖する豊かな自然環境を保全、整備します。

○水質については、河川の利用状況、沿川地域の水利用状況、現状の環境を考慮し、良好な水質の保全に努めます。

○河川空間の整備と適正な利用については、豊かな自然環境や地域の風土・文化を踏まえ、魅力的で活力あふれる小丸川を目指し、多様なレクリエーションや身近な環境学習の場としての整備、保全に努めます。

○良好な景観の保持・形成については、小丸川の清らかな流れと豊かな自然が織りなす良好な河川景観の保全を図ります。

3) 河川整備の進捗・実施状況 (河川改修事業)



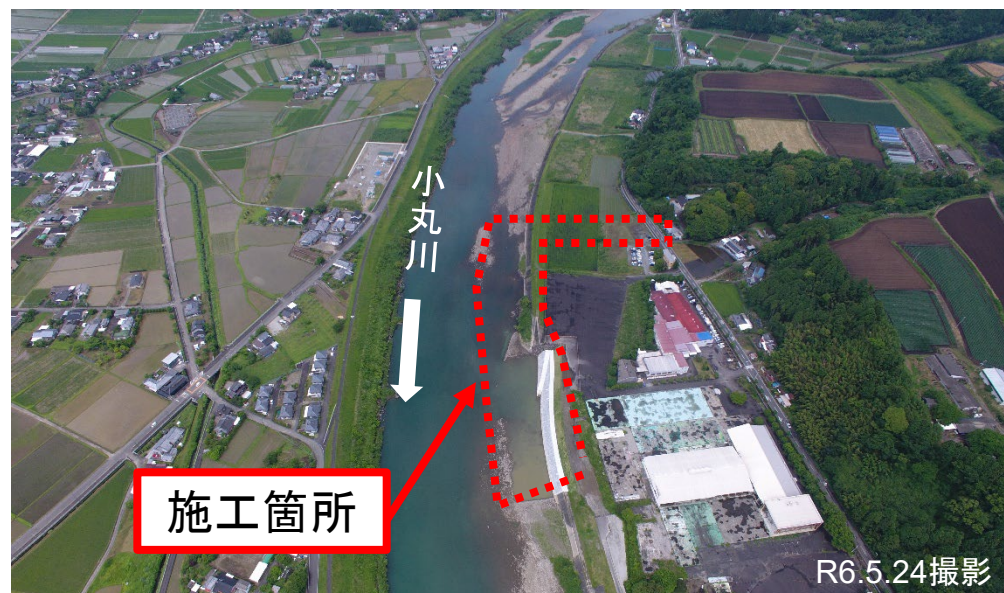
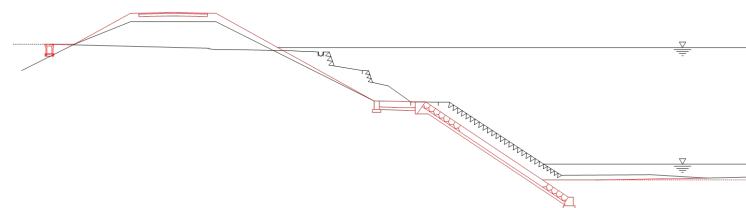
築堤護岸工・・・北山地区



<整備概要>

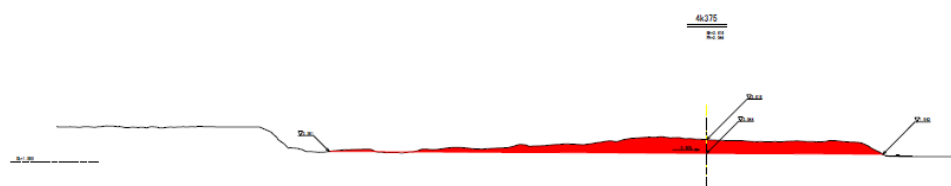
- ・築堤及び掘削護岸工事を行うことで治水安全度の向上を図る
- ・施工延長 約230m
- ・令和5年度現地着手

横断図



(3) 河川整備の進捗・実施状況 (河川維持)

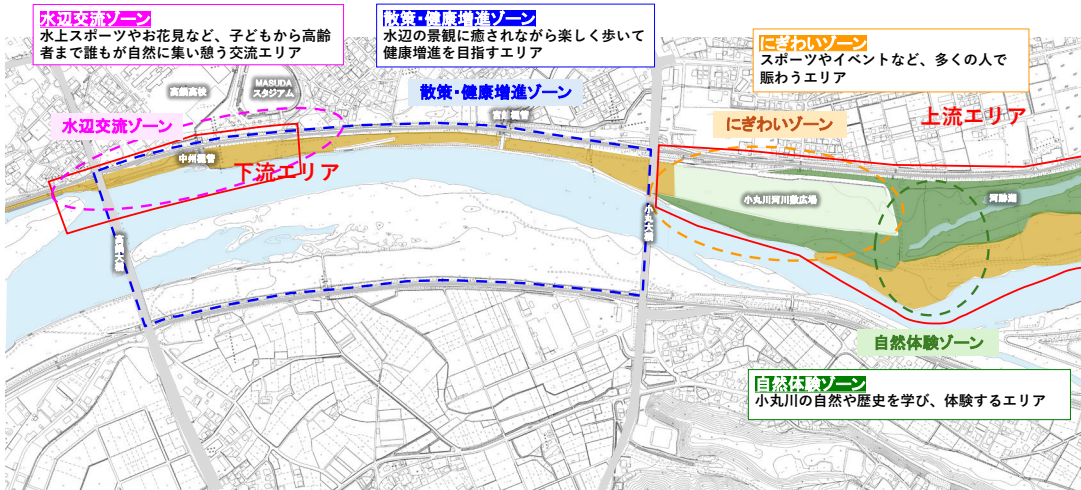
- 河川内の樹木や堆積土砂については、河川巡視、測量等により河道の変化を把握し、適切な維持管理に努めています。
- 河道掘削・樹木伐採を実施することで河川の水位低減を図り、早期に安全性の向上をはかります。



かわまちづくり

- ▶ 高鍋町では「小丸川下流地区かわまちづくり計画」策定に向け令和6年10月に協議会を設立し検討中であり、令和7年8月のかわまちづくり支援制度への登録を目指している。
- ▶ 小丸川下流地区かわまちづくりでは、『利用者・地域住民・市民活動団体・企業・地域自治体・河川管理者等が協働し、高鍋地区のまちづくりと一体となった小丸川の水辺空間を活かした「魅力ある小丸川かわまちづくり」を目指す』ことを基本理念に掲げ、賑わいのある小丸川河川空間を創出することを目指して、かわまちづくりを推進中である。

かわまちづくり検討範囲及びゾーニング(案)



かわまち会議の状況



利活用・整備(案)イメージ(下流エリア:高鍋高校付近)



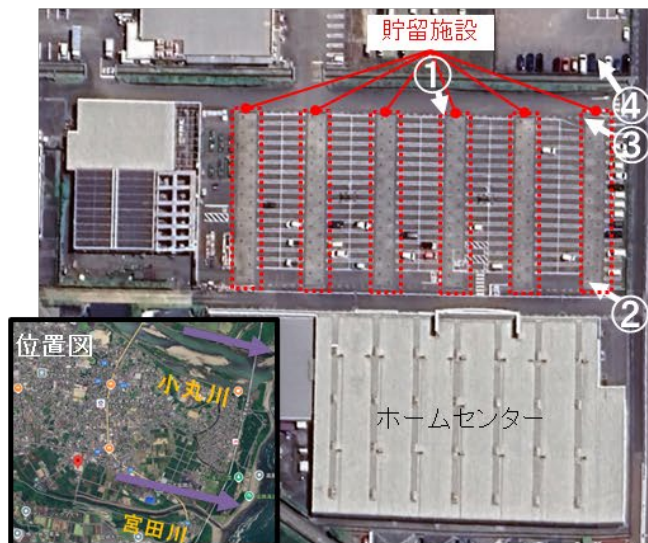
利活用・整備(案)イメージ(上流エリア:河川敷広場付近)



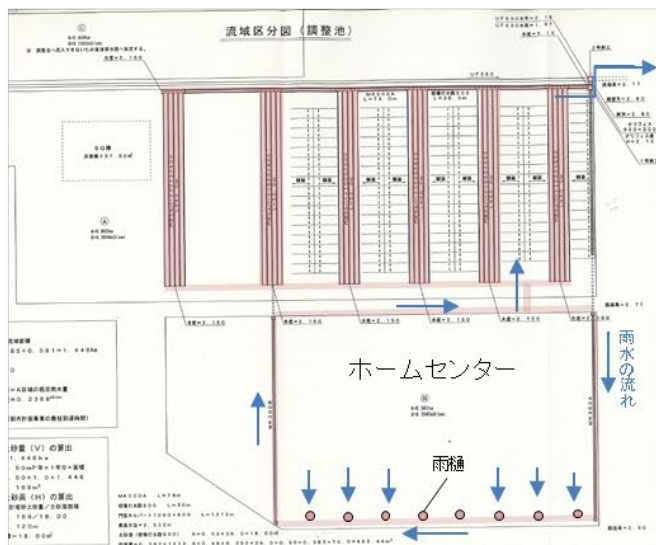
(4) 流域治水の取組み(雨水地下貯留施設)

○ホームワイドが駐車場に雨水枡を設置している。排出は操作せず、排出溝のみで調整をする。

駐車場を活用したゆっくり流す取り組み



～近景～



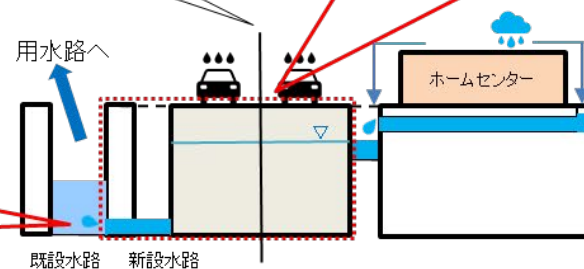
～イメージ図(断面図)～

横断面図(地下)



雨水地下貯留施設により、新たに貯めることができるようになった水量
(MAX貯留量＝約483m³)

出口を小さく
ゆっくり流す



(4) 流域治水の取組み(高鍋町流域治水勉強会の開催)

- H17年9月洪水において小丸川下流の宮越地区で家屋等の甚大な浸水被害が発生。このほか、平成9年9月、平成16年8月、平成30年9月と立て続けに浸水被害が発生していることから、国・県・町が相互に連携して「小丸川宮越地区総合内水対策計画(令和2年3月)」を策定し、ハード・ソフト一体となった浸水被害軽減対策を実施中。
- 国による排水機場整備(令和4年度完成)に合わせて、高鍋町において水害強いまちづくりの一環として、災害危険区域に関する条例を制定。今後、区域指定等を実施予定。
- 高鍋町において、流域治水を進めるための方策を検討する。



実施状況(R6.8.19)

- ・参加自治体等
国、高鍋土木、児湯農林、高鍋町(事務局:国)
- ・開催頻度
3か月に1度に開催

項目	補助金	総事業	国	高鍋土木	児湯農林	高鍋町
I 広域を出来るだけ防ぐ・減らすための対策						
■ 小丸川域における対策						
1) 雨水貯留浸透施設(調整池・公共施設) 校庭・公園・駐車場等	貯留・浸透施設の整備 校庭貯留施設の整備	20.58		歩道等の透水性舗装を依頼		開発許可時に依頼
2) 雨水貯留浸透施設(下水道)	内水等都市浸水対策	23				
3) 雨水貯留浸透施設(民間施設)	雨水貯留浸透施設の整備 固定資産税の減免	37.38				ホームワイドで実施 開発許可時に依頼
4) 田んぼダム	貯留機能向上のための農地整備 田んぼダムを推進する活動	P4			○	地盤地区直轄整備事業にて整備予定
5) 用水路事前放流	事前排水の活動支援	5, 29.30				
6) たため地活用・事前放流	洪水強化に資する施設整備 低水管理の活動支援	3.5, 29.30			○(ため池整備) △(事前放流)	ため池整備を実施
7) 雨水貯留タンクの普及	雨水貯留浸透施設の整備 固定資産税の減免	37.38	高鍋出張所に設置			庁舎等において設置を検討
8) 雨水浸透槽の普及	雨水貯留浸透施設の整備 固定資産税の減免	37.38				
9) 森林の水源涵養機能の発揮	間伐等森林整備 泡山施設、保安林整備	15.16				
10) 貯留機能保全区域	指定に関わる特例措置	17				
■ 小丸川域内における対策						
1) 河堤掘削・草刈・引堤・ダム・遊水池等			河堤掘削等	松尾ダムの土砂撤去 河堤掘削		
2) 利水ダム事前放流	事業放流に伴う損失補填 放流調整等に対する補助制度等	P3	ダムの事前放流の調整	ダムの事前放流		
■ 内水氾濫対策						
1) 排水施設・ポンプ(小丸川)	小丸川改修事業等		溢越排水機場等設置 排水ポンプ車の運用			○
2) 排水施設・ポンプ(下水道)	内水等都市浸水対策	23.34				△
II 被害対象を減少させるための対策						
① リスクの低いエリアへ誘導、住まい方の工夫						
1) 立地適正化計画の策定・見直し	防災指針地区の補助	50				R7年度着手、R8年度策定予定
2) 土地利用規制の設定						災害危険区域の設定 宅地かさ上げの補助金を検討
3) 嵩上げ、移転促進	レッドゾーンからの移転補助 既存不適格建築物等への助成	49.52				宅地かさ上げの補助金を検討
III 被害の軽減、早期復旧、復興のための対策						
① 土地のリスク情報の充実						
1) ハザードマップ(外水・内水)の公表	ハザードマップ作成印刷支援	54.55	R7リスクマップを作成			R8にHMを整備予定
2) 浸水想定区域(外水・内水)の公表	浸水想定区域図作成支援	54.55, 56	浸水想定区域策定済み	R7に浸水想定区域図を公表予定		R8にHMを整備予定
② 被害の最小化						
1) 避難場所等の整備	避難場所等の整備	59.61				避難場所の拡大に向けて検討 備蓄の確保
2) 施設の耐水化の促進	浸水防止設備の課税特例措置 既存住宅の浸水対策	47.53				△
③ 避難に資する情報発信						
1) 情報発信手段の検討	防災・安全文付金 効果促進事業 内水浸水リスクマネジメント推進事業	54.56	リスクライン、浸水センサー等の設置			◎
④ 早期復旧に向けた取り組み						
1) 排水ポンプ車の整備	購入補助(緊急度深推進事業)		排水ポンプ車の運用			

小丸川流域治水プロジェクト【位置図】

R6.3(2.0策定)

～都市化の進む流域において総合的な治水対策を一層推進し、浸水被害を軽減～

- H17.9洪水では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したこと等を踏まえ、以下の取り組みを一層推進していくものとし、更に国管理区間においては、気候変動（2℃上昇時）を考慮した戦後第2位洪水であるH16.8洪水が流下する場合においても、現行の治水安全度を確保し、洪水を安全に流下させることを目指す。
- 堤防整備や河道掘削等の事前防災を引き続き推進し、洪水時の急激な水位上昇を抑制するため、遊水機能を有する土地や歴史的な治水対策の保全を図る。また、流出抑制対策の検討や立地適正化計画制度における防災指針の作成等、流域市町村が一体となった防災・減災対策を図る。



森林の整備・保全

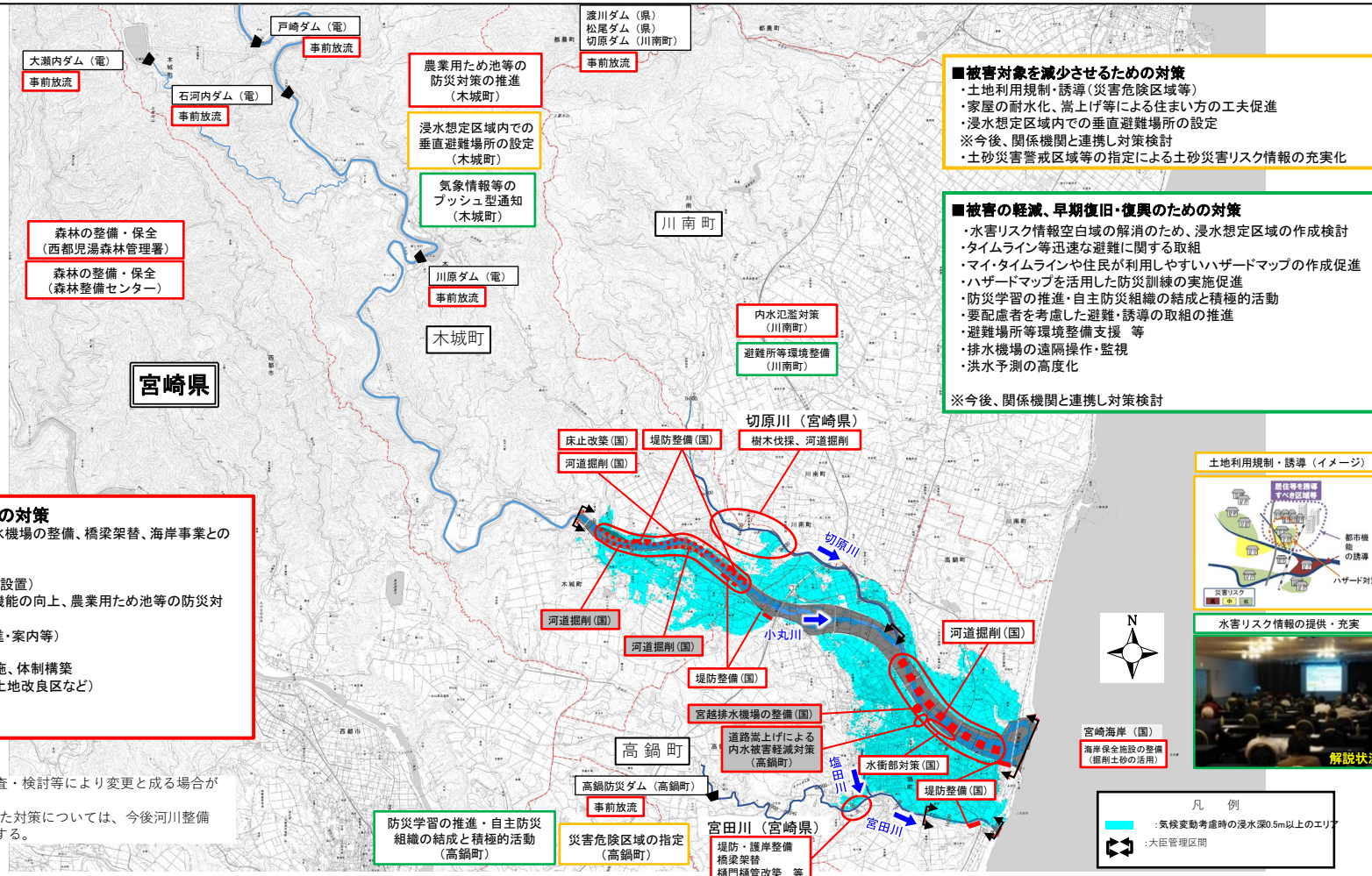


■氾濫をできるだけ防ぎ・減らすための対策

- ・河道掘削、堤防整備、床止改築、宮越排水機場の整備、橋梁架替、海岸事業との連携 等
- ・砂防関係施設の整備
- ・内水氾濫対策（町道高上げ、内水水位計の設置）
- ・流域の雨水貯留機能の向上（水田の貯留機能の向上、農業用ため池等の防災対策の推進、雨水浸透・雨水貯留施設の設置促進・案内等）
- ・森林の整備・保全、治山施設の整備
- ・利水ダム等8ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：宮崎県、高鍋町、九州電力（株）、土地改良区など）
- ・既存施設の有効活用検討
- ・流域治水対策（林野部局との連携強化）

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更と成る場合がある。

※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画の過程でより具体的な対策内容を検討する。



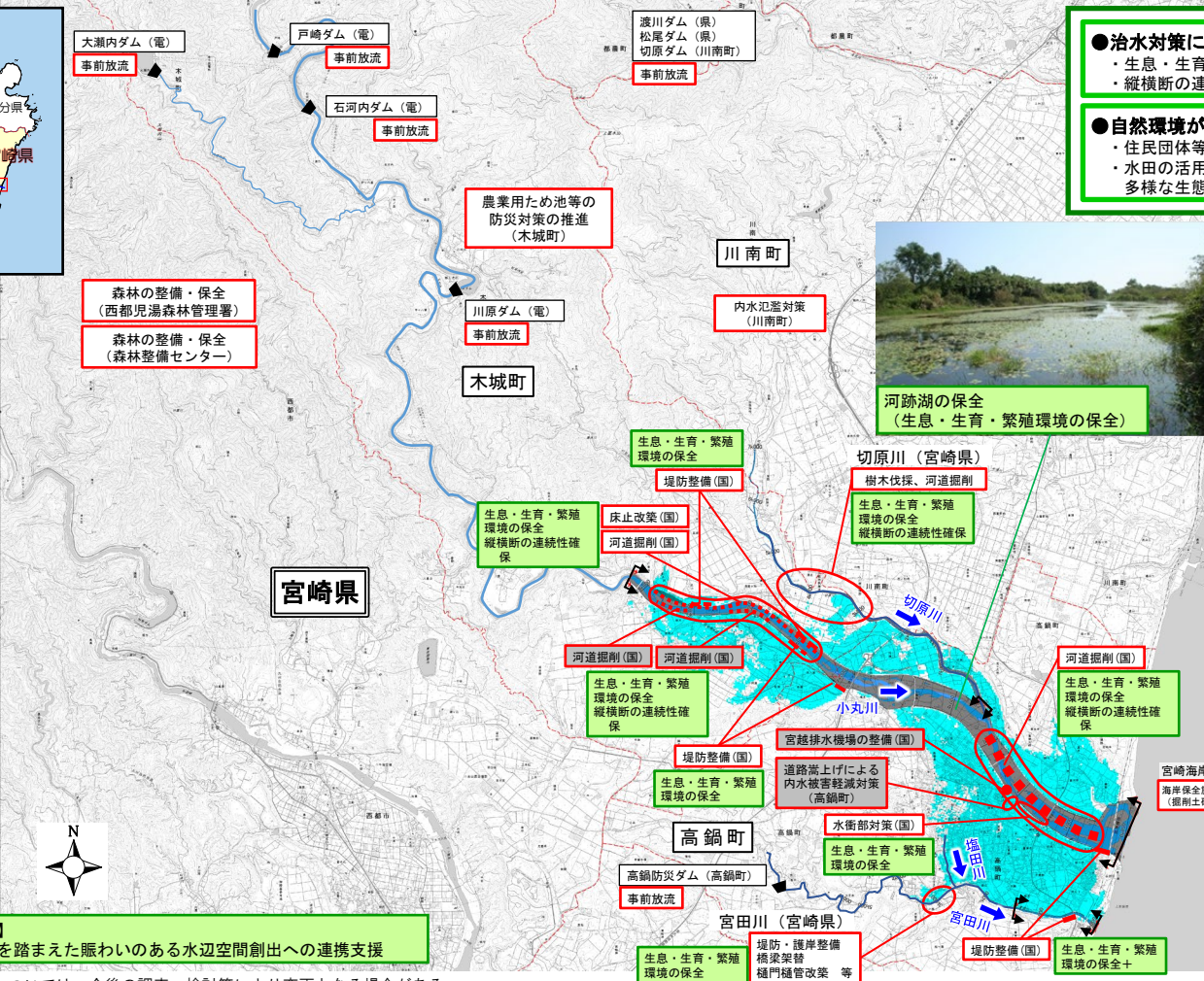
小丸川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

～度重なる台風被害が発生した小丸川における防災・減災対策～

●グリーンインフラの取り組み 『多様な生物が生息・生育・繁殖する豊かな自然環境の保全』

- 小丸川上流部は急峻な山地を流下し左岸側の尾鈴山周辺一帯は、尾鈴県立自然公園に指定され照葉樹林が分布し美しい渓谷や滝が存在しており、竹鳩橋付近の高水敷部は、かつての流路の名残である河跡湖が点在し浮葉・抽水性の植物が生息・繁殖し、昆虫や魚類が生息・繁殖しているなど豊かな自然環境、良好な河川景観を有しています。
- 汽水域特有の多様な環境が成立している河口域及び多様な水生植物が生息している河跡湖の保全として、今後概ね10年間で多様な生物が生息・生育・繁殖環境を保全するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

【位置図】



●治水対策における多自然川づくり

- ・生息・生育・繁殖環境の保全
- ・縦横断の連続性確保

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・住民団体等による小中学生等への環境学習等の実施
- ・水田の活用（田んぼダム）、ため池の活用等による多様な生態系の保全



河跡湖の保全
(生息・生育・繁殖環境の保全)

住民団体等による小中学生等への環境学習



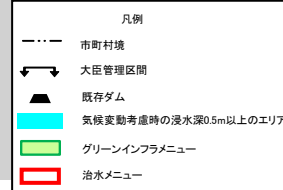
住民団体等による小中学生等への環境学習



【全域に係る取組】

- ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携支援

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。



小丸川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～度重なる台風被害が発生した小丸川における防災・減災対策～

R7.3月更新

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：100%

（概ね5か年後）

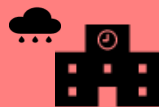
農地・農業施設の活用



3市町村

（令和6年度末時点）

流出抑制対策の実施



0施設

（令和5年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 2箇所

（令和6年度実施分）

砂防関係施設の
整備数 0施設

（令和6年度完成分）

※施工中 1施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



1市町村

（令和6年7月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想
定区域 1河川

（令和6年9月末時点）

内水浸水想
定区域 0団体

（令和6年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



洪水
土砂 46施設
避難確保
計画 1施設

（令和6年9月末時点）

個別避難計画 1市町村

（令和5年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

小丸川における排水機場整備（国）

「小丸川宮越地区総合内水対策計画」に基づき排水機場を整備。10年に1回程度発生する内水被害に対し、床上浸水被害を解消するとともに、近年で最大の被害が発生した平成17年9月洪水に対しても、床上浸水被害の解消を図る。



■宮越排水機場 令和4年完成

北山地区における河道掘削状況（国）



河道掘削による流下能力の向上を図る。

被害対象を減少させるための対策

「小丸川宮越地区総合内水対策計画」に基づき
水害に対応したまちづくりの構築（高鍋町）

防災 取り組み 水害に強い住まい方へ

新たに家屋を建てる場合、その地域がどんな所なのか、水害想定されていないかなど調査が大切です。その上で、水害が想定される地域へ住まれる方は、「水害に強い住まい方」への対策をお願いします。

「水害に強い住まい方」とは 水害の発生時に、家屋が浸水しないような建て方にしたり、二次災害の恐れのある危険物は、その流出などの無いように対策を行わなくてはなりません。これを「水害に強い住まい方」と呼んでいます。

財団法人日本建築防災協会のホームページ <http://www.kenchiku-bosai.or.jp>
（家屋の浸水マニュアル、同ガイドブック等を紹介しています）

■家屋の浸水対策

あらかじめ浸水被害が想定される地域では、宅地のかさ上げを行ったり、1階部分を駐車場などの住居以外のスペースにあてる「高床式」の建物にするなどの対策が必要です。



浸水被害が懸念される箇所においては、条例による土地利用の規制をかける等、水害に強いまちづくりを推進。

【主な取り組み】

- ・土地利用規制（災害危険区域の設定等）
- ・家屋の耐水化、嵩上げ等住まいの工夫の促進

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

要配慮者利用施設管理者を対象とした避難確保計画作成に係る支援の取り組み（宮崎県）



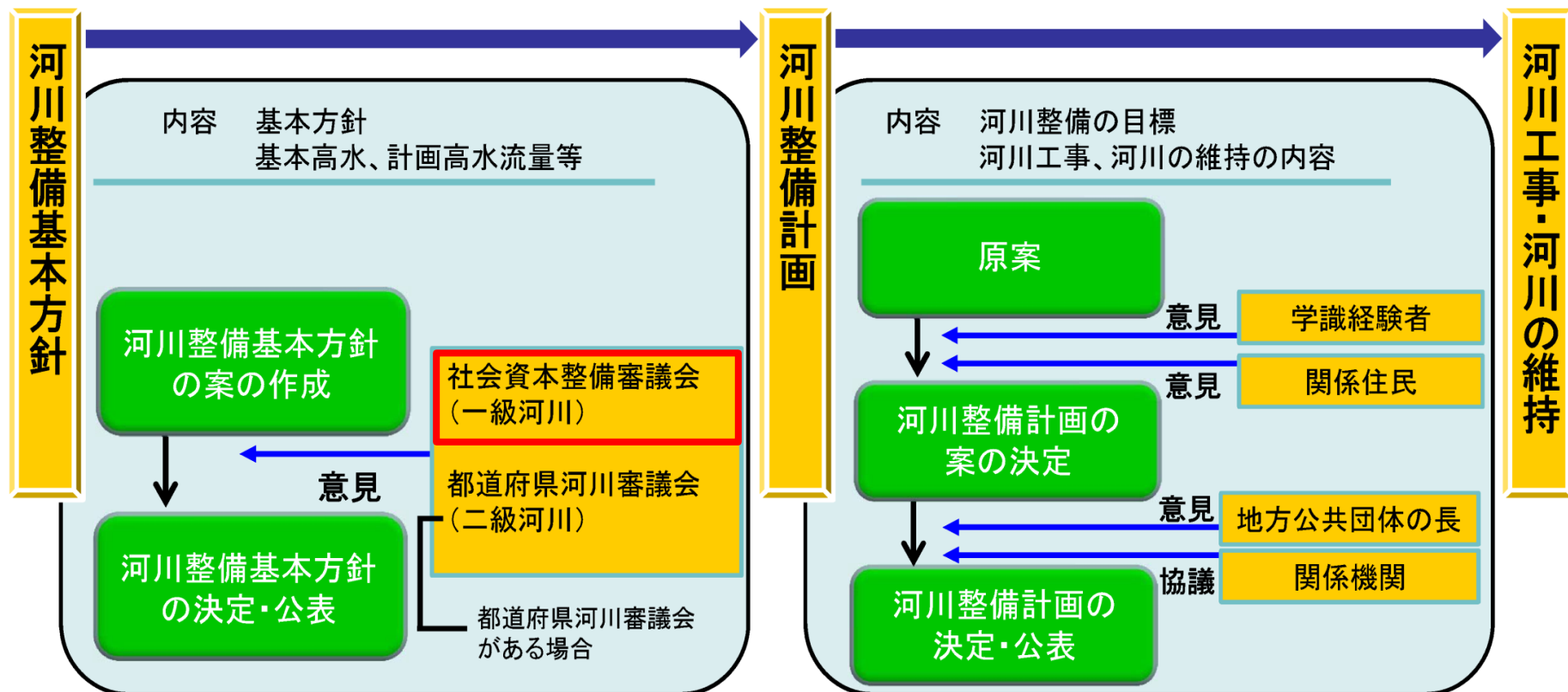
開催状況（R3.11.15）

要配慮者利用施設管理者への支援として、県関係各課職員等が講師となり、**避難確保計画作成に係る講習会（オンライン方式）を開催**。（令和3年11月：県内全域を対象、271施設が参加）法改正内容や水害・土砂災害リスク等の避難確保計画作成の必要性や、避難確保計画作成のポイント等について、詳しく解説。また、今後も活用できるよう、県内全市町村へ講習会動画の配布を実施。

大淀川水系河川整備基本方針 の変更概要（案）

令和7年7月16日
宮崎河川国道事務所

- 平成9年に河川法が改正され、「河川整備基本方針（長期的な河川整備の方針）」と「河川整備計画（当面の具体的な整備の計画）」を策定することとなっている。



（河川整備基本方針）

第十六条 河川管理者は、その管理する河川について、計画高水流量その他当該河川の河川工事及び河川の維持（次条において「河川の整備」という。）についての基本となるべき方針に関する事項（以下「河川整備基本方針」という。）を定めておかなければならない。

（河川整備計画）

第十六条の二 河川管理者は、河川整備基本方針に沿って計画的に河川の整備を実施すべき区間について、当該河川の整備に関する計画（以下「河川整備計画」という。）を定めておかなければならない。

- 平成15年には河川整備基本方針を、平成18年には河川整備計画を策定した。
- 平成17年9月の台風第14号により、観測史上最大の流量を記録する洪水が発生し、約4,700戸の浸水被害が発生。
これを踏まえ、平成17年度からの5年間で、河川激甚災害対策特別緊急事業による河川整備を集中的に実施した。
- その後、平成28年に河川整備基本方針を変更し、平成30年に河川整備計画を変更した。

主な洪水被害

昭和29年9月洪水

■10日～13日にかけて降り続いた雨は、都城で679mmを記録し、流域で甚大な被害が発生



宮崎市大塚町(大淀川6k付近右岸)の浸水状況

昭和57年8月洪水

■24～27日にかけて、三股で総雨量646mm、青井岳500mmを記録し、各地で浸水被害が発生



宮崎市下小松地区(大淀川8k付近右岸)の浸水状況

平成5年8月洪水

■7月31日～8月2日にかけて降り続いた雨は、単ノ浦で総雨量669mmを記録し、各地で多くの浸水被害が発生



宮崎市小松地区(大淀川4k付近左岸)の浸水状況

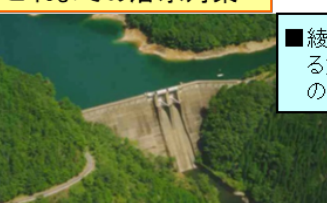
主な洪水と被害

洪水年	流量 (m³/s)	洪水原因	浸水戸数(戸)	
			床上	床下
S29.9	7,000	台風12号	3,173	5,303
S57.8	7,900	台風11号	264	463
H 5.8	7,800	前線	771	784
H 9.9	8,100	台風19号	401	584
H17.9	10,500	台風14号	3,834	872

※流量はダム・氾濫戻り後流量を記載

これまでの治水対策

綾南・綾北・岩瀬ダムによる洪水調節により下流部の洪水流量を低減



綾南ダムの整備
(宮崎県、昭和33年完成)

宮崎市街部の洪水対策として特殊堤を整備



大淀川の堤防整備
(平成18年完成)

床上浸水被害軽減のため、排水機場を整備



青柳排水機場の整備
(平成14年完成)

平成17年9月洪水を踏まえて宮崎市街部での河道掘削を実施



宮崎市街部の掘削
(平成19年完成、激特事業)

主な洪水と治水計画

昭和2年 大淀川下流、本庄川下流の直轄改修工事に着手

(計画高水流量) : 5,500m³/s(宮崎地点)

昭和8年9月18日～20日洪水(台風第26号)

柏田地点流量: 不明 床上浸水 9,361戸 (※県下の被害)

昭和24年 大淀川上流の直轄改修工事に着手

(計画高水流量) : 3,000m³/s(樋渡地点)

昭和28年 総体計画の策定

(計画高水流量) : 4,000m³/s(樋渡地点) : 7,000m³/s(宮崎地点)

昭和29年9月10日～13日洪水(台風第12号)

柏田地点流量: 7,000m³/s
床上浸水 3,173戸、床下浸水 5,303戸
綾南ダム完成(昭和33年:宮崎県施工)
綾北ダム完成(昭和35年:宮崎県施工)

昭和39年 総体計画の策定

(基本高水のピーク流量) : 7,500m³/s(宮崎地点)
(計画高水流量) : 7,000m³/s(宮崎地点)

昭和40年 工事実施基本計画の策定

(基本高水のピーク流量) : 7,500m³/s(宮崎地点)
(計画高水流量) : 7,000m³/s(宮崎地点)

岩瀬ダム完成(昭和42年:宮崎県施工)

昭和57年8月24日～27日洪水(台風第13号)

柏田地点流量: 7,900m³/s
床上浸水 264戸、床下浸水 463戸

平成5年7月31日～8月2日洪水(前線)

柏田地点流量: 7,800m³/s
床上浸水 771戸、床下浸水 784戸

平成9年9月14日～16日洪水(台風第19号)

柏田地点流量: 8,100m³/s
床上浸水 401戸、床下浸水 584戸

平成15年 河川整備基本方針の策定

(基本高水のピーク流量) : 9,700m³/s(柏田地点)
(計画高水流量) : 8,700m³/s(柏田地点)

平成16年8月29日～30日洪水(台風第16号)

柏田地点流量: 7,400m³/s
床上浸水 164戸、床下浸水 203戸

平成17年9月4日～6日洪水(台風第14号)【観測史上最大】

柏田地点流量: 10,500m³/s
床上浸水 3,834戸、床下浸水 872戸

平成17年 大淀川激甚災害対策特別緊急事業を採択

平成18年 河川整備計画の策定

(河川整備計画の目標流量) : 8,100m³/s(柏田地点)
(河道の配分流量) : 7,200m³/s(柏田地点)

平成28年 河川整備基本方針の変更

(基本高水のピーク流量) : 11,700m³/s(柏田地点)
(計画高水流量) : 9,700m³/s(柏田地点)

平成30年 河川整備計画の変更

(河川整備計画の目標流量) : 10,500m³/s(柏田地点)
(河道の配分流量) : 9,100m³/s(柏田地点)

平成30年9月30日洪水(台風第24号)

柏田地点流量: 7,800m³/s
床上浸水 319戸、床下浸水 165戸

令和4年9月18日～19日洪水(台風第14号)

柏田地点流量: 8,200m³/s
床上浸水 203戸、床下浸水 101戸

※流量はダム・氾濫戻り後流量を記載

○治水計画を、「過去の降雨実績に基づく計画」から
「気候変動による降雨量の増加などを考慮した計画」に見直し

これまで

洪水、内水氾濫、土砂災害、高潮・高波等を防御する計画は、
これまで、過去の降雨、潮位などに基づいて作成してきた。

しかし、
気候変動の影響による降雨量の増大、海面水位の上昇などを考慮すると
現在の計画の整備完了時点では、実質的な安全度が確保できないおそれ

気候変動による降雨量の増加※、潮位の上昇などを考慮したものに計画を見直し

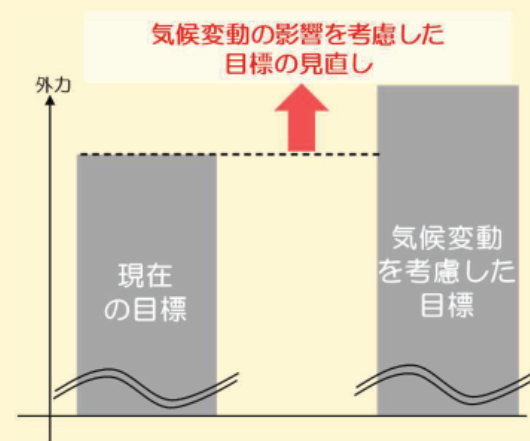
※ 世界の平均気温の上昇を2度に抑えるシナリオ（パリ協定が目標としているもの）

気候変動 シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模(1/100等))	
2℃上昇相当	約1.1倍	

降雨量が約1.1倍となった場合

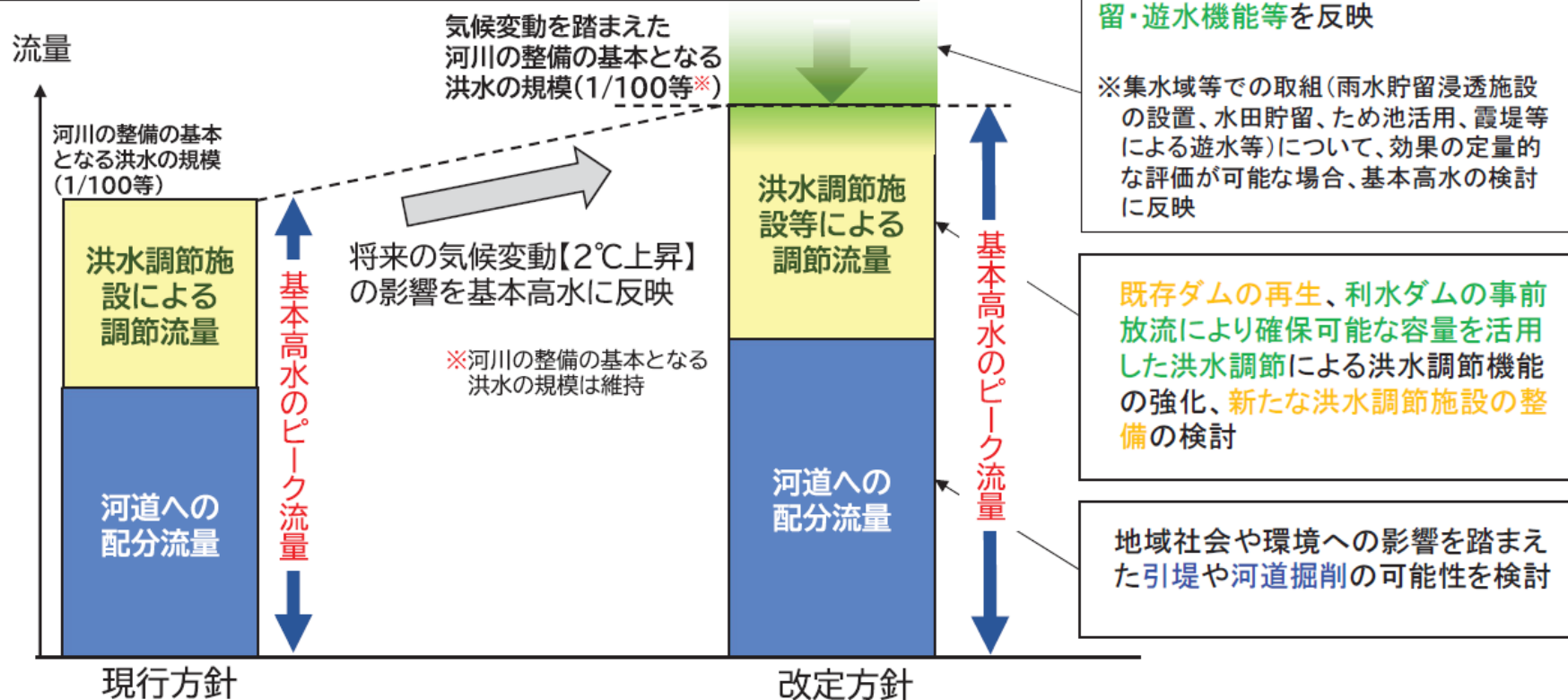
全国の平均的な 傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※ 流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は、一級水系の河川整備の基本とする洪水規模（1/100～1/200）の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



- 科学技術の進展や現時点のデータの蓄積を踏まえ、将来の降雨量変化倍率、アンサンブル実験による予測降雨波形の活用など、気候変動の影響を考慮して基本高水のピーク流量を設定。
- 基本高水の設定においては、流域の土地利用、沿川の保水・遊水機能等について現況及び将来動向などを評価し、流域の降雨・流出特性や洪水の流下特性として反映。(集水域等での対策(水田貯留、ため池の活用等)については、取組が進み、効果の定量的評価が可能になった場合、基本高水の検討に反映)
- 河道と洪水調節施設等への配分については、改めて地域社会や環境への影響を踏まえた引堤や河道掘削の可能性の検討を行うとともに、既存ダムの洪水調節機能強化等の検討を行い決定。

「気候変動」と「流域治水」の新たな視点を踏まえ改定



⇒ 大淀川水系については、令和7年6月16日に開催された社会資本整備審議会 河川分科会 河川整備基本方針検討小委員会(第151回)にて審議を開始

河道と貯留・遊水機能確保による流量配分の考え方

- 計画高水流量（河道配分流量、洪水調節流量）の検討、設定にあたっては、流域治水の視点も踏まえ、流域全体を俯瞰した貯留・遊水機能の確保など幅広く 検討を実施するとともに、河道配分流量の増大の可能性や、技術的な可能性、地域社会や河川利用・河川環境への影響等を総合的に勘案したうえで設定。

【中流部】

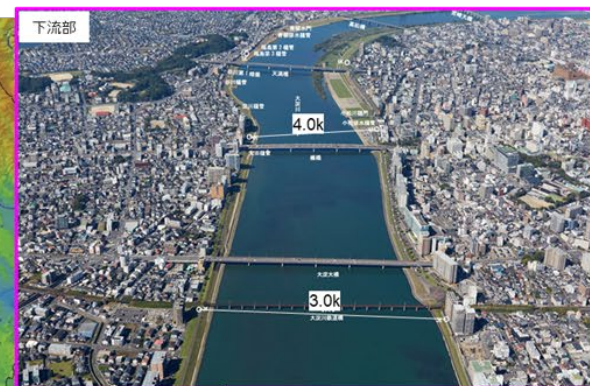
- ・地域社会への影響や河川利用・河川環境への影響等を踏まえて、河道配分流量の増大の可能性を検討。
- ・支川も含めて既存ダムの有効活用や新たな貯留・遊水機能の確保の可能性等を検討。

【上流部】

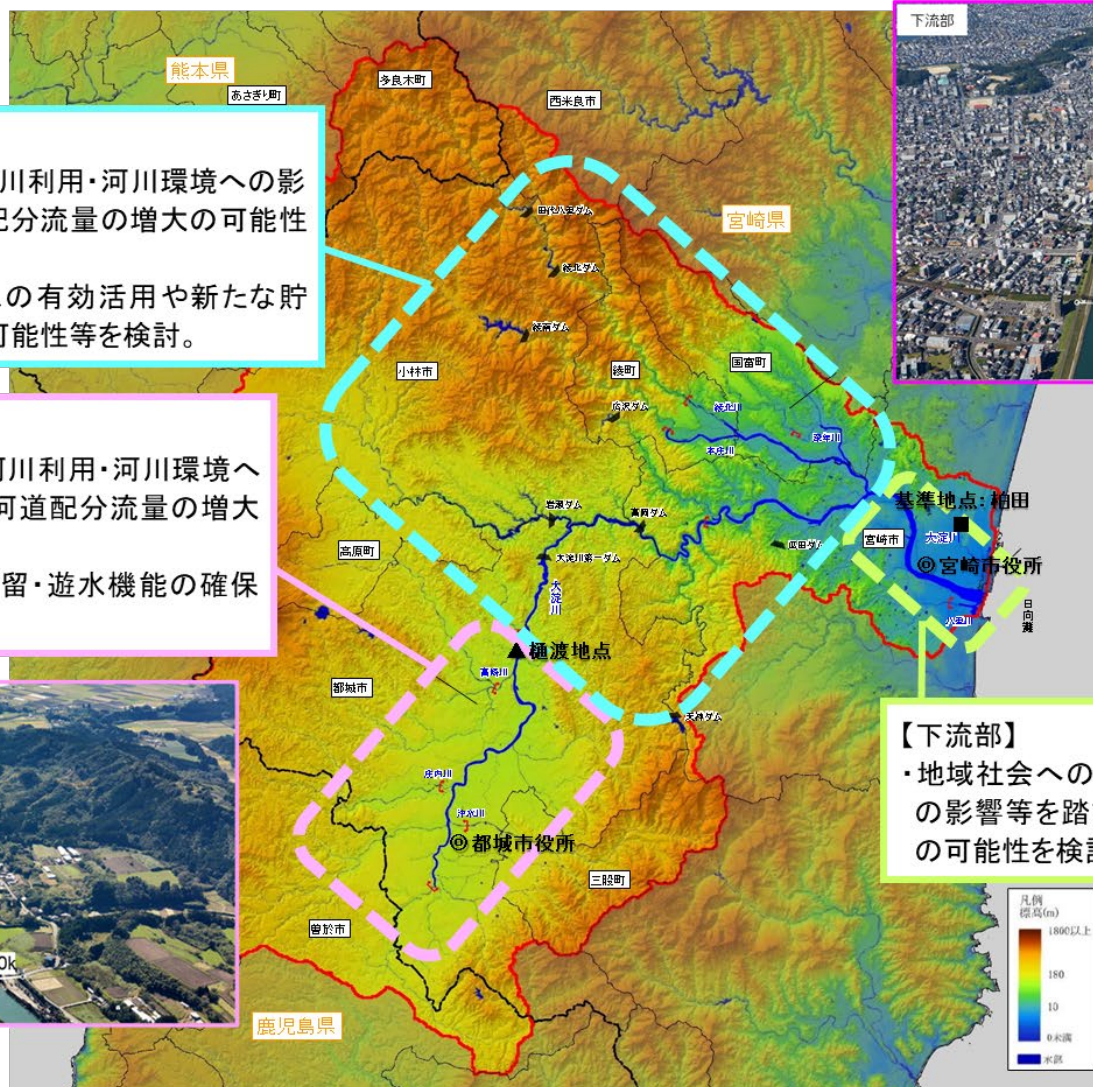
- ・地域社会への影響や河川利用・河川環境への影響等を踏まえて、河道配分流量の増大の可能性を検討。
- ・支川も含めて新たな貯留・遊水機能の確保の可能性等を検討。



大淀川(51.0k～52.0k付近) 都城市



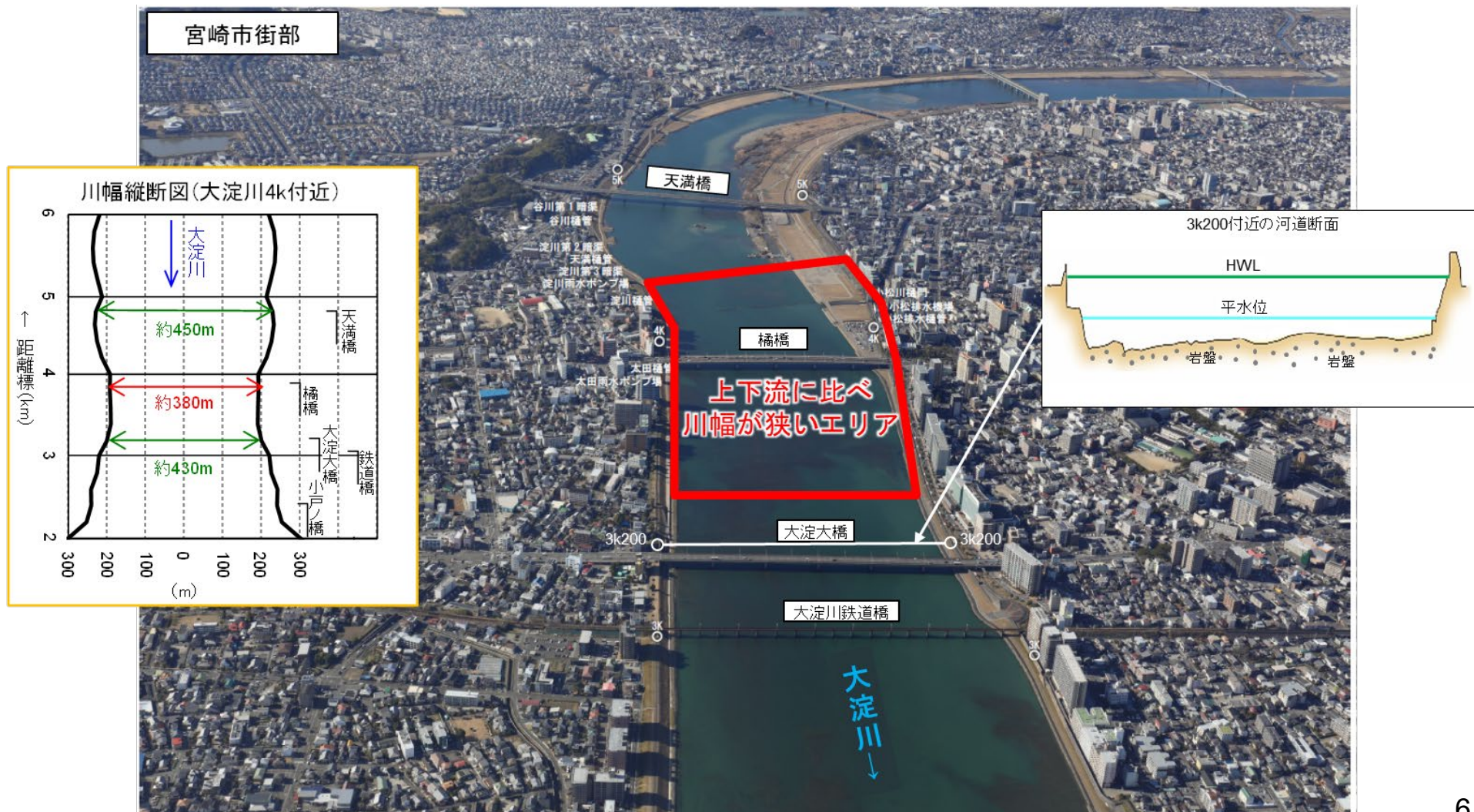
大淀川(3k0～4k0付近) 宮崎市



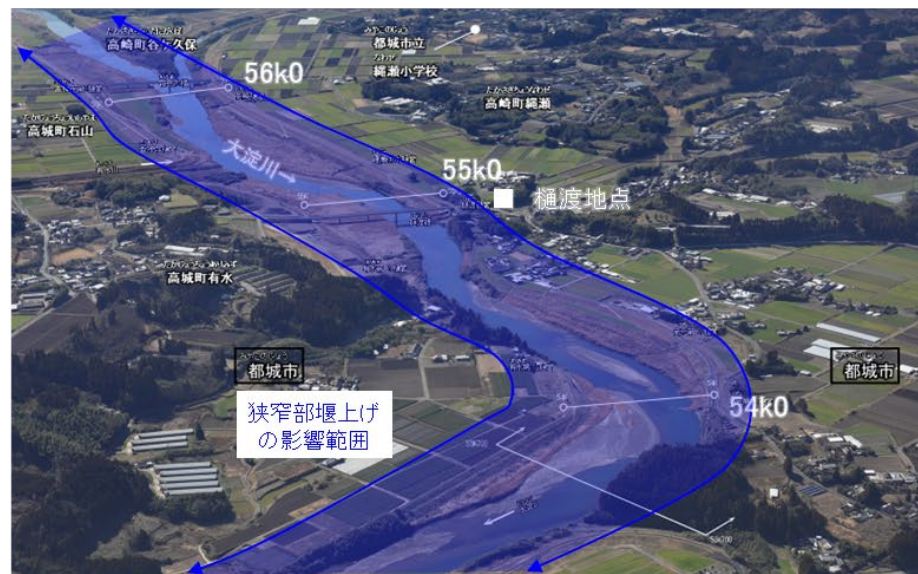
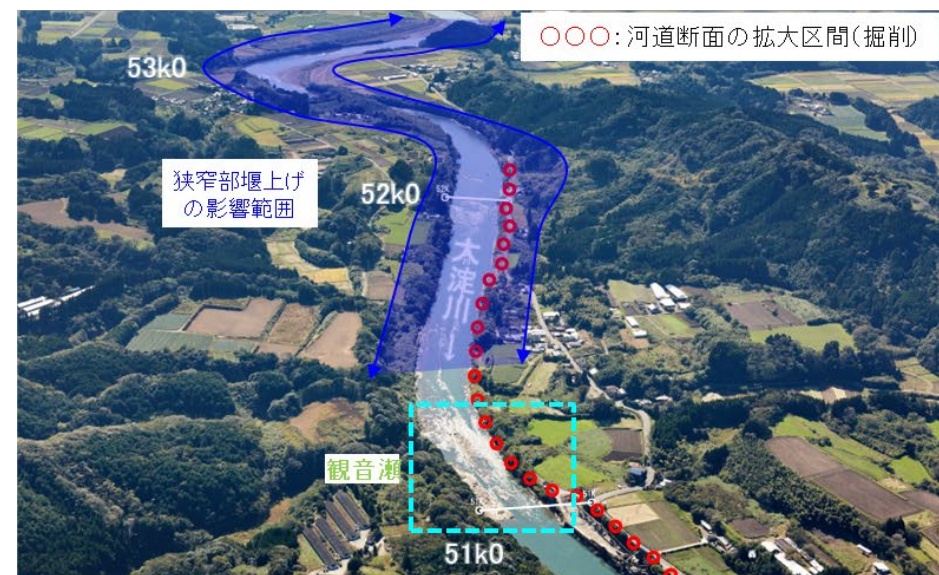
【下流部】

- ・地域社会への影響や河川利用・河川環境への影響等を踏まえて、河道配分流量の増大の可能性を検討。

- 流下能力が不足する宮崎市街部において、河道配分流量増大の可能性について検討した。
- 河口から約4kmの位置にある橘橋付近は、川幅が狭く流下能力が不足しているが、兩岸の背後地にマンション、ホテル群等が密集し、複数の橋梁架け替えも伴うため、引堤による河道配分流量の増大は社会的な影響が大きい。
- また、河床部には、岩盤が露頭している。
- 以上のことから、河道配分流量を基準地点柏田9,700m³/sより増大させることは困難であることを確認した。



- 狭窄部の影響による堰上げが上流の有堤区間にまで及ぶため、樋渡地点において河道配分流量増大の可能性について検討した。
- 検討にあたっては、狭窄部となっている県指定史跡「観音瀬水路」の保全に配慮し、河道掘削をすることにより、樋渡地点において $5,000\text{m}^3/\text{s}$ 相当の流下能力が確保可能であることを確認した。
- 掘削を実施する際は、景観・利用・環境との調和に配慮した河川整備を実施する。

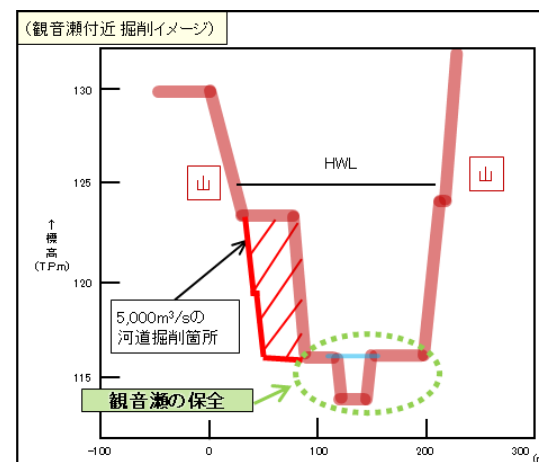


県指定史跡「観音瀬」の歴史*

<江戸時代>
周辺の岩盤とその先端にある滝により、船の往来が困難

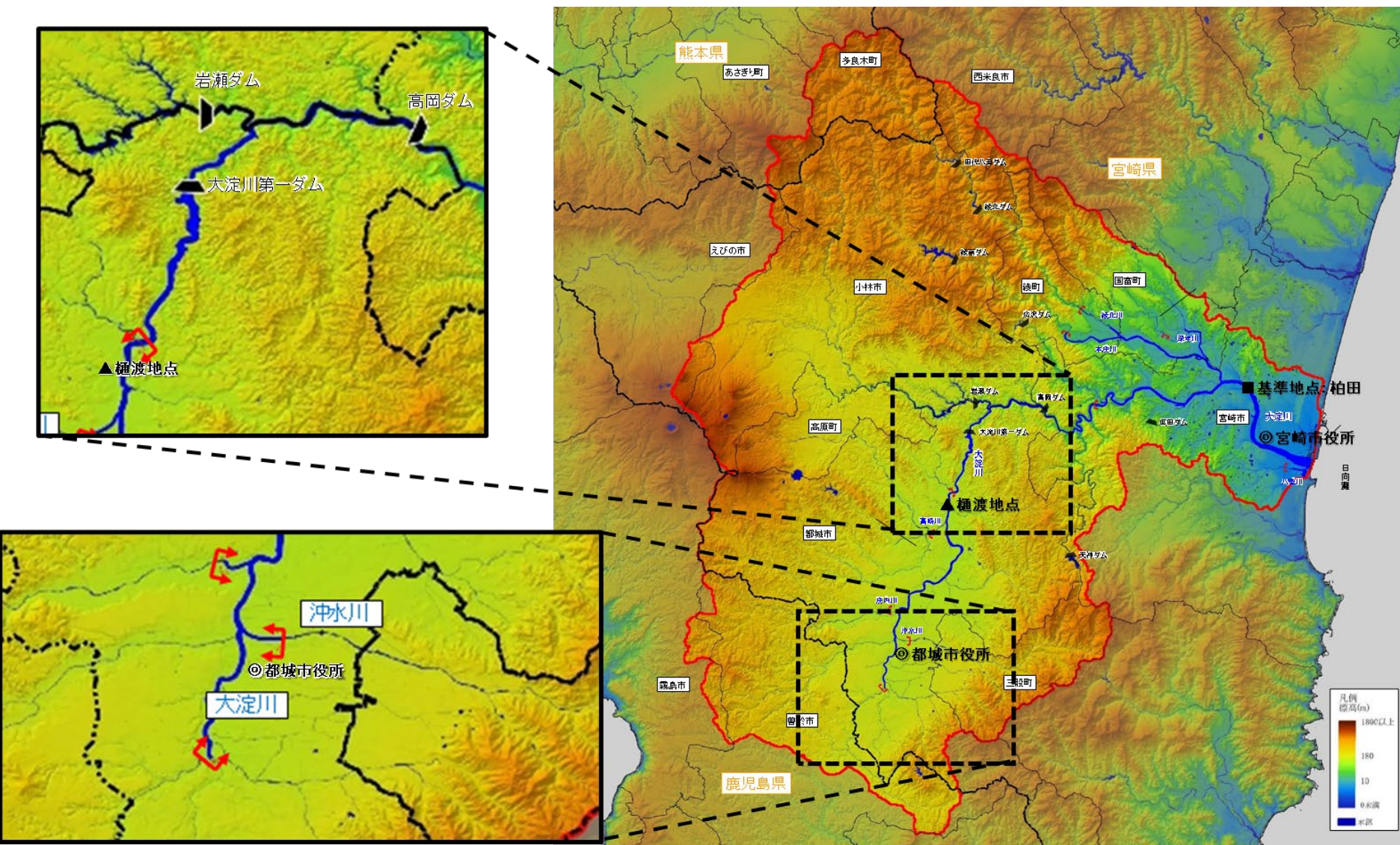
<寛政時代: 1791~1793年>
船の往来を主な目的に、延長約90mの水路を開通

<明治時代: 1889~1890年>
県営事業にて、さらに1本の水路を開通



洪水調節量の設定 貯留・遊水機能の確保

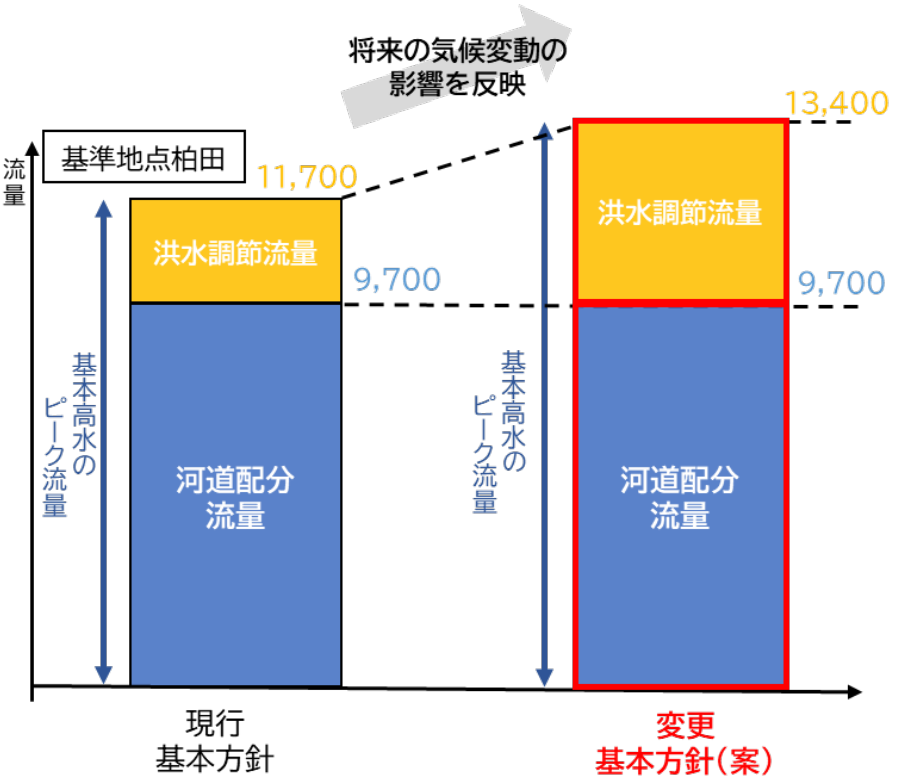
- 今回見直しを行う基準地点柏田における基本高水のピーク流量 $13,400\text{m}^3/\text{s}$ に対応するため、既存ダム の操作ルールの変更など、既存施設の有効活用や新たな貯留・遊水機能の確保について検討を行い、 $3,700\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節が可能であることを確認。



○ 気候変動による降雨量の増加等を考慮し設定した基本高水のピーク流量13,400m³/s(基準地点柏田地点)を、洪水調節施設等により3,700m³/s調節し、河道への配分流量を 9,700 m³/sとする。

河道と洪水調節施設等の配分流量

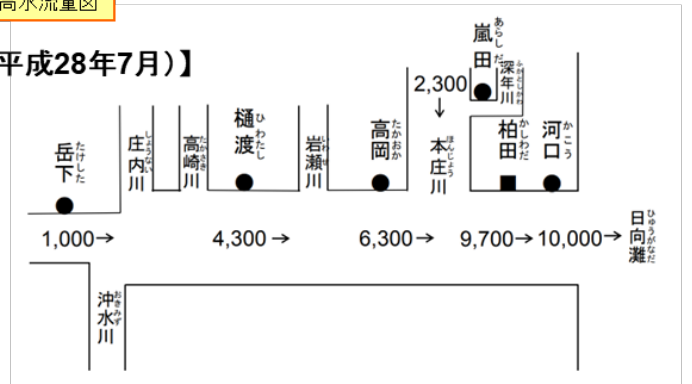
洪水調節施設等による調節流量については、流域の土地利用や流域での保水・貯留・遊水機能の今後の取組状況を踏まえ、基準地点のみならず流域全体の治水安全度向上のため、具体的な施設計画等を今後検討していく。



※基準地点柏田の計画規模1/150は踏襲

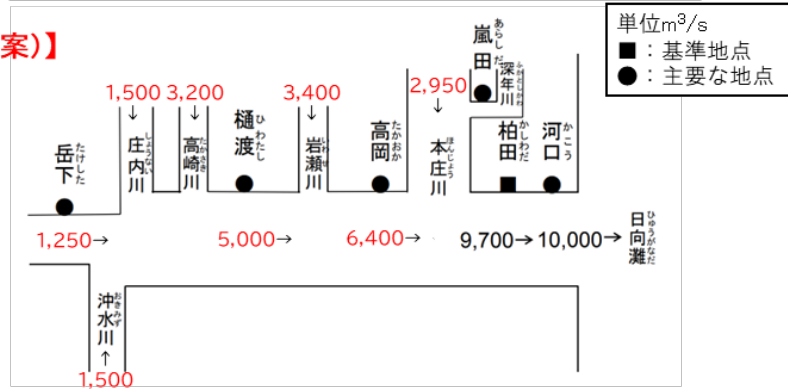
大淀川計画高水流量図

【現行(平成28年7月)】



	基本高水のピーク流量 (m ³ /s)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /s)	河道への配分流量 (m ³ /s)
柏田	11,700	2,000	9,700

【変更(案)】



	基本高水のピーク流量 (m ³ /s)	洪水調節施設等による調節流量 (m ³ /s)	河道への配分流量 (m ³ /s)
柏田	13,400	3,700	9,700